



目 次

| | | | |
|----------------------------------|---|--------------------------------|-----|
| TNVN2025 年度講演会報告 | 1 | 紙上講座「口頭表現と作文クラスの子金奮闘記」 | 4,5 |
| 「NHK やさしいことばニュース」の教材利用について | 2 | コラム「チャッピーさんとお付き合いはほどほどに」 | 6 |
| 「NHK やさしいことばニュース」愛読者インタビュー | 3 | | |



TNVN
ホームページ
QRコード

講演会報告

～日本語教育・支援 変わったものと変わらないもの～



10月12日の日曜日午前10時から12時まで、TNVN 主催の2025年度の講演会を開催しました。今年度はTNVN ニュースレターの紙上講座でおなじみの金子広幸氏に講演をお願いしました。

第一部： 「日本語教育の昨今について」

第一部では、この数十年の日本語教育の流れの中で、変わったことと変わらないことについて詳しくお話くださいました。特に最近では目標言語でアウトプットができるようにということを、教える側も学習する側も意識して日々の活動に取り入れるようになったことを指摘下さいました。折々金子さんの職場のクラスでの例などをお話くださり、具体的でわかりやすく示していただきました。日本語教師資格の国家試験など、日本語教育を取り巻く社会の変化もある中、地域の現場で支援に

あたるボランティアがそのような潮流に巻き込まれないことが大切だと指摘されました。台湾台北で現地の人に寄り添ってもらった金子さん自身の経験から、今日本で暮らしている学習者が、道具としての日本語を学びつつ自己実現できるよう寄り添っていきたいという思いも強く伝わりました。

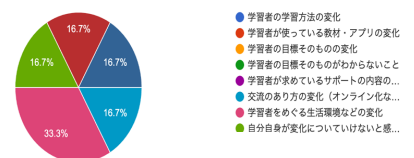
- ▶ 日本社会が日本語教育や日本語支援を見る目は大きく変化
- ▶ 状況 目まぐるしい
- ▶ 地域支援の皆様は、
- ▶ 「教える・教えない」
- ▶ 「導く・寄り添う」
- ▶ 「日本語学校・大学・地域などとの連携」など、
- ▶ さまざまな模索

第二部：「金子に聞いてみよう」

第二部では、事前アンケートで参加者から寄せられた質問や悩みについてお答えいただきました。その質問の中で、「日本語教育の流れがこれまで文法積み上げだったものから can do 型に移行しているようだが、文法の扱いをどの程度したらいいのか戸惑いがある」、という問いに対しては、『文法に偏らずかつ抜けている文法知識は補ってしっかり練習し、最終的にはその文法を使った表現ができるように持っていくと真に役立つ学習となる』と回答されました。

また、「最近の地域日本語教育の取り組みとして、初級段階は国（自治体）の責任で行い、それ以降はボランティア組織にお願いするようになると理解しているが、地域の日本語教室を担うボランティアは学習者が地域で生活していくための力をつけるお手伝いや社会につながるお手伝いも必要だろう、ボランティアの視野が狭くなってはいけなのでは？」という指摘に対しては、『ボランティアに求められている負担が大きくなっていることが心配、無理なく個人の判断で関わりを築いてください』とのことでした。

最も「変化を感じる場面」はどれですか？1つ選んでください。



講演の最後に、金子さんが勤務しておられる大学で担当されている日本語クラスの公開イベントへの参加の呼びかけがありました。

詳しくは TNVN のホームページのお知らせ・情報をご覧ください：

<https://www.tnvn.jp/>

（文責：山形）

「NHK やさしいことばニュース」

～日本語中級の学習者用教材としての利用について～

みなさんは学習者に日本語を教える時にどのような教材を利用していますか？ 以前から「みんなの日本語」や「げんき」などの書籍がよく知られていますが、インターネットが普及した昨今では、「いろどり」や「つなひろ」などのオンライン教材がよく使われるようになりました。

オンライン教材はスマートフォンや PC があればいつでもどこでも手軽に利用することができ、静止画だけでなく音声や動画なども利用することができます。ただ、「いろどり」や「つなひろ」などのオンライン教材は主に日本語を習い始めたばかりの学習者(初級)に対して使われることが多く、ある程度日本語ができる学習者(中級)に向けたオンライン教材はまだまだ少ないのが現状です。

ニュースレター124 号では、東京都つながり創生財団の Web サイト「多文化共生ポータルサイト(TIPS)」の中級の学習者への活用について取り上げましたが、今回はNHK の Web サイト「NHK やさしいことばニュース」を紹介します。

「NHK やさしいことばニュース」

NHK やさしいことばニュースは2024 年 9 月 30 日にラジオ番組でスタートしました。最新のニュースを、難しいことばはできるだけ使わ

ず、わかりやすい表現で伝える、新しいニュース番組です。『やさしい日本語』での表現を目指して原稿を制作し、在留外国人や子どもなどに向けて、通常のニュースよりゆっくりとしたやさしいことばで届けます。放送内容はラジオの音声とともに Web サイトで公開されています。

中級の学習者の日本語教材としてこの「NHK やさしいことばニュース」Web サイトの活用を考えてみませんか？

Web サイトの特徴

- (1)ラジオ番組で放送された最新ニュースを簡単に Web 上で、動画や静止画つきで見ることができる。
- (2)ラジオで流れた『やさしい日本語』のニュースの文章と音声 Web で提供されている。
- (3)ニュースにでてくる固有名詞が人名、地名、会社名なのかが簡単にわかる。
- (4)ニュースだけでなく、台風や地震などの発生が予想される各種災害についても『やさしい日本語』を使った説明とその音声提供されている。

- (5)すべての文章の漢字にはひらがなのルビがついているが、ワンタッチでルビを消すことができる。

中級用の教材としての活用

NHK ことばニュース Web サイトは、『やさしい日本語』を使ったニュースや、各種災害の説明とその音声をスマホ／タブレット／PC を使ってオンラインで手軽に利用することができます。日本語がある程度できるようになった中級レベルの学習者向けの格好のオンライン教材になると思います。ぜひ、以下のサイトから「NHK やさしいことばニュース」Web サイトをのぞいてみてください。

(文責：鈴木)



やさしい日本語によるニュース例

NHK やさしいことば ニュース
NEWS WEB EASY

(<https://www3.nhk.or.jp/news/easy/>)

♪「NHK やさしいことばニュース」を毎日読んで、日本語力を向上させた中国人の蘇銘(ソメイ)さんにインタビューしてみました♪

ちよだ日本語カフェ Swan 中村三千子

NHK やさしいことばニュース(以下「やさニュ」)及び NHK NEWS WEB(以下「NNW」)を愛読している蘇銘さんにインタビューをしました。

Q: 日本に来たいと思ったきっかけは?

A: 2016年に旅行で日本を訪れた時、日本人があまりにフレンドリーで気さくに声をかけてくれて驚き、日本が大好きになり、いつか日本に行きたいと思い、2020年思い切って仕事を辞めて来日しました。

Q: 日本語はどこで学びましたか?

A: 最初中国にいる時、独学で勉強していました。その後日本に来てから日本語学校に6カ月通い勉強しました。

Q: スワクラにきたきっかけは?

A: 日本語学校に通っていましたが、もっと勉強したいと思い、ネットで検索し、当時コロナ禍だったので、オンラインで活動していたかつ、HP が充実しているスワンに興味をもち、参加しました。

Q: やさニュはどこで知りましたか?

A: 日本語学校での教材だったので、そこで知りました。

Q: やさニュを読もうと思った理由は?

A: ニュースを読むことで、日本語の勉強だけではなく、日本で今起こっていること、政治、文化、教育、経済など、全領域を勉強できると思って読み始めました。

Q: やさニュをいつ読んでいましたか?

A: 日本語学校で教えてもらってからは、毎日通学の時間に読んでいました。日本で就職した今でも毎日 NNW を読んでいて、読むことが日課になっています。日本に来てからの最初の2年間は、やさニュを毎日読んでいました。ふりがなもあってとても読みやすかったのがよかったです。わからない単語があれば、すぐに調べて語彙力をつけました。来日3年目からは普通の

NNW を読めるようになりしました。今は毎日の通勤時 NNW を読んでいます。

Q: 毎日読んでみてどうですか?

A: 語彙力があがったと思います。また表現力もついたと思います。自分にとって、ニュースを読むことはとても楽しいです。毎日の楽しみになっています。

Q: 最近気になったニュースは?

A: 公明党の政権離脱による、首相指名選挙の行方です。(10月18日取材時)日本の政治は、どこの国よりも複雑で難しいと感じています。また、日本人がたくさんノーベル賞を受賞されてとても凄いと思ったし、嬉しく思いました。

Q: やさニュに求める改善点は何がありますか?

A: やさニュは、NNW と比べてタイムリーじゃないのが残念です。数日前のニュースが載っているのと、土日祝日はニュースが更新されないのも残念です。また、台風や大雨、地震等の緊急時、やさしい日本語でもニュースがあると助かると思いました。でも、相対的に日本語を学ぶ外国人にとって、最高のサイトだと思っています。これからもやさニュと NNW を読むつもりです。

蘇銘さんへのインタビューを終えて

蘇銘さんがスワクラに来てくれた最初の頃は、なかなか日本語が通じず、「わかりません」と回答されることが多かったのですが、4年経った今、本当に驚くほどスムーズに日本語を話されている陰には、やさニュの存在があり、蘇銘さんの毎日の努力があったことを改めて知ることができました。



蘇銘(ソメイ)さん

口頭表現と作文クラスの金子奮闘記

日本語教師 金子 広幸

地域の皆さんは、交流の場所で、学習者が書いてきたものをチェックしたりすることがあると思います。学校に出す手紙から、職場で書かなければならないもの、何かの申込書、受験を控えた人の小論文の練習、また、論文や研究の方向性を書いたもの、レポート・論文の下書きなど、いろいろなレベルのものをご覧になっているかもしれませんね。

教師の立場から見ると、文法学習や読解、文字を教えているときは、到達すべきゴールが明確で、学習者も教師も、はっきりそれを目指して走っていく感覚があります。

でも、上に述べた「作文指導」や、それを元にした発表等の練習をする「口頭発表の指導」だと、学習者自身も書いている最中にはどのようなものが出来上がるのかわかっていないこともあり、寄り添う立場としても、どう導いたらいいのか迷い続けたり、またどんな問題を聞かれるのかもわからない「不意打ち」感覚もあったりして、目の前で発生した問題を直後に片付けていかなければならない“即戦力”が求められる場面です。

私の教師としての経験を見ると、この口頭表現や作文に関わっている時間が比較的長く、新しい職場に採用されると、まずはその担当になることが多かったです。やってみると、多角的な方向から学習者を眺めなければならず、日がな一日、提出された作

文を直したり、学生から連絡が来ると即時に対応しなければならなかったりして、最初のうち負担が大きく感じました。

でも、今は…！学習者のトータルでの成長が観察できて、とてもやりがいのある教室場面だと毎週楽しみにしているんですよ！

というわけで、今までいろいろな場所で、私が担当してきたこの口頭表現・作文のクラスの様子を交えながら、金子の奮闘ぶりをご想像いただけたらと考えました。

いくつかご注目いただきたいところをまとめてクラス活動の概要をここにお話ししましょう。

1) 毎週手書きのテスト

クラスが始まるとまず朝イチで手書きで文を書くテスト。学生たちは前週に扱った内容を思い出して、前の日までに言葉の使い方や文法、漢字の書き方なども確認。負担は大きいですが、一度覚えればそれが実力に。

2) 新しいテーマでアンケートや討論して盛り上げる！

ただ「書け！」と言われて文章を書くのは難しいから、翌週のテーマが決まったらアンケート等を使って話題を整理、それを討論したりして盛り上げる。

3) 返却のコツ

下書きは時々宿題に・時々教室で。直す時が勝負どころ！間違っている

ところだけ指摘。返却後に本人が直す。正確に直っていなかったらその場でヒントを出して答えを導く。例えば、動詞の可能形がわかっていない人には、直しながら言わせて、文法の要点を意識してもらう。適切な表現が見つからない場合には、ことば探しを手伝うなど。

4) 普通形で書いて、ですます・敬語で発表

書き言葉に慣れてもらうために、書くときは普通形で。レポートや論文のスタイルに慣れてもらう。でもこの原稿を見ながら発表するときは「ですます」や「敬語」などの、話し言葉に改めて。ここが金子クラスの特徴とも言えるところ。

5) 録音・録画を多用。

発音・アクセント・発話の要領について楽しく指導。発表方法は様々、原稿を見ながら読む、ある程度は覚えて発表、自分で録音ファイルを作って提出、スライドなど視覚的情報を使いながらの発表など。いずれの場合も必ず録音・録画を使って、金子と一緒に聞く。発音・アクセント、文のどの部分を強調するかなど、きめ細かに本人の飲み込める範囲の中で確認。本番としてとった録音データや、プレゼン発表をクラスで聞く。

6) 評価もわかりやすく

学校なので、提出物の数、スライドや発表そのものの出来栄のいずれも対象に評価。どこに評価の要点を置

くかは、学習者と決める。

…とこんな感じなのですが、管理が難しく教師の負担になってしまうこともあるので、この教室活動を支えるにはコツがあります。

<締切厳守>

集中して添削が行えるよう、原稿の締め切り等を厳格に(金子はかなりお目こぼししていますが、あまりにも遅れていたなら、許さないぞ~)。

<オンラインアイテム駆使>

最近ではオンラインのアイテムを上手に利用。Google Document の自動修正機能や、コメント機能を使って、学習者とやりとりをしながら作文を直す。また、手書きのものを写真で送ってもらって、書類にコメントを記入、Google Classroom のルーブリックと言う評価機能、評価項目機能を使って採点を簡素化。

<同じ目線で評価分析>

口頭発表のときには、動画を使用、学習者も評価者も同じ目線から評価分析が行われるように。

<振り返りもしっかり>

1つのテーマが終わったら、「書くとき、どんなことが大変だったか」「発表で苦しかったのはどんなことか」「準備は何が大変だったか」などアンケートを送って、コメントを求める。意識化することで、次のチャレンジをする時、新しい目標に。

<1対1で対応するときの信頼関係を大切に！>

授業時間中でも、個人作業中には個別対応することがあり、楽しくやりとりができるように。また、その時のコ

メントなどをしっかり覚えておけるように、言葉で伝える一方、メモも手渡す。

担当させてもらっているこのクラスは、次の進学先への受験を計画している人や働く準備を始めている人ばかりで、小論文・口頭発表・面接への意識はとても高いです。金子は子供のころ「何か本を読んで、読書感想文を書きなさい」と言われると、とても苦痛に感じたものでしたが、この人たちは、自分がやがて乗り越えていかなければならない壁がはっきり見えているので、クラスで練習することの意義もはっきり意識しています。私もその点を見抜いて、どの場面で役に立つかをいつも説得しています。例えば、「自分の将来」を作文に書くときには「これは進学先の面接の発言の準備にも役に立つよ」などと説得しているのです。「文章を書かされる」という雰囲気より、「自分の役に立つことを準備している」というふうに気分を切り替えて書いてもらっています。

昨今取り沙汰される ChatGPT など AI についてなのですが、今周りを見ると、教授者も学習者も、おっかなびっくり恐る恐る使っていますよね。「あんなのはダメだ!」と否定する向きもあります。

私のクラスでは、学習者とは「困ったら使ってもいい」とコンセンサスを取って、その代わり「仕上がったものが自分自身の発言と一致していれば大丈夫」と伝え、手書きの試験を実施して

います。金子クラスの場合には、作文として書いたものは、口頭発表のテーマになるのであり、そのことについて自分自身の内容になっていないと、質疑応答にも答えられないし、将来課される小論文や面接などでも、自分の発言として発表できなければならないので、すべての学習者たちは、その流れがはっきりわかっている、AI を使う意味があると感じています。もちろん、テーマを決めるときには「自分の個人的な体験を含めて、具体的に書け・話せ」など AI だけでは結果が出ないものも含めています。

ある大学のクラスでは、この夏の終わりには「趣味」について書くのがやっとだったのに、今は自分たちの将来についてかなり高度なものが書けるようになっていて、その進歩の速さに驚かされます。

「若いっていいのね~」などと言っではいられません。これは学生たちには内緒ですが、私自身は外国語にチャレンジするときにはこのようなコースを受けた事はありませんでした。「うらやましいな~。自分にもカネコセンセーと言う人がいたらよかった~」と自画自賛しています。へへっ。



column

チャッピーさんとお付き合いはほどほどに

今年の流行語大賞にノミネートされた「チャッピー」をご存知ですか？チャッピーとは生成 AI の ChatGPT に対して若者がつけた愛称です。つい生成 AI に愛称がついてしまいました。最近の若者は毎日のようにチャッピーさんを利用しているのではないのでしょうか？ レポートの作成や勉強中の調べものなど、チャッピーさんの利用は欠かせません。チャッピーさんに相談すればするほどチャッピーさんとの仲は深くなります。そのうちに恋愛感情まで発展する場合がありますがこれはちょっと別のテーマです。

2022 年に登場した ChatGPT をはじめとする生成 AI は第 4 の産業革命と言われています。車の自動運転、医療支援やソフト開発など、人間生活への貢献は計りしれませんが、今ではチャッピーさんは若者にとっては

それ以上の存在になっています。

ガートナーという IT の将来予測を行う有名な会社が米国にあります。このガートナーの予測によると 2026 年(来年です！)には生成 AI により手抜き思考が急増すること。何事にもチャッピーさんに相談する昨今の若者を見るとこの予想もなるほどそうなるかもと思わせます。ガートナーは企業自身が生成 AI の利用を活用する中で、企業は AI に過度に依存する者ではなく、AI の支援に頼らない者を今後はますます求めると予測しています。

チャッピーさんとの付き合いはほどほどに、出来るだけ自分の『脳』で考えるようにしましょう。体力維持のためには、出来るだけエレベータやエスカレータを使わずに階段を利用することが大切なように... (文責: 鈴木)

～編集後記～

先号の紙上講座で、そして今号で報告した金子さんによる講座でも「日本語教育・支援 変わったものと変わらないもの」というテーマでのお話しでした。そこで、自分が関わっているボランティア教室を見てみると、ボランティアスタッフのボランティアへの取り組み方に変化があるように思えます。30 年前はボランティア活動に使命感を持っている人が少なからずいました。今のボランティアさんも責任感をもって取り組んでくださっていますが、ライフスタイルが多様化し、ボランティアもその一つ、と捉えているようです。うまく切り替えて人生を楽しんでいるのを側から見るのは心地よいです。

ボランティアは楽しくなければ続かない、ということは昔も今も変わりませんね。同じことは学習者にとっても言えます。教室が楽しくなければ足が遠のいてしまうわけです。ボランティアも学習者も相互に楽しい教室作りに臨んでいるのですね。

(文責: 山形)



東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えします。メールでお問合わせください。

* 対面でのご相談にもお応えします。
ご希望の方は、以下メールで御予約の上、おいでください。

場所: 東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線—出口 B2b)
飯田橋駅下車
セントラルプラザ 10F ロビー

◆郵送先
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆E-mail: office@tnvn.jp
◆ホームページ: <https://www.tnvn.jp>
◆郵便払込
口座番号: 00100-1-719259
加入者名: 東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員(2025年11月30日現在)
正会員: 81 団体
個人協力会員: 15 名
賛助会員: 4 団体

◆編集/岡田美奈子、鈴木恵司、西堀孝文
仁村議子、山内真理、山形美保子

「感想を是非、お寄せください」

126 号アンケート

<https://forms.gle/i5k>

[viiXsAeH9H9No9](https://forms.gle/viiXsAeH9H9No9)

